

(様式4)

事業所名：グループホーム和

目標達成計画

作成日：令和 3年 1月 12日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に備えて、対応することができるように計画書や備蓄、避難等訓練を実施しているが、地域の応援体制の明確化と個々の利用者様の移動手段の明記などに課題がある。	災害に備えて、具体的な移動手段や応援体制などの明記を行う。想定や訓練などを繰り返し行い、避難の精度を高め対応力を向上することができるようにする。	計画書の見直しと修正。 避難訓練の実施。避難時に必要となる物品のリストアップ。利用者個々の移動手段の明記。 地域などの応援体制の書面化。 備蓄品の確認と管理。	3ヶ月
2	10	運営に関する利用者、家族等意見の反映 コロナ禍であることによる困難さはあるものの、利用者や家族の意見をより運営や利用者様の生活全般に反映することができる体制と職員の意識の向上に課題がある。	要望等の事例が生じた際には検討を行い、利用者や家族の要望がより一層反映されるようにする。	利用者や家族が要望や意見を発信しやすい（言いやすい）態度やアプローチを行う意識を職員が持てるよう会議等により検討を行う。 「意見箱」による要望への「対応」についてプライバシーに配慮しつつ開示等を行う。	3ヶ月
3	6	身体拘束をしないケアの実践 現状、身体拘束は行われていないが、職員の知識や意識をより一層高めることに課題がある。 正しいケアの方法について学ぶことに課題がある。	身体拘束をしないケアの実践 現状、身体拘束は行われていないが、人間的な理由や安全配慮の為に、身体拘束が行われることも危惧されるため、職員の知識や意識をより一層高めることができるようにする。	定期的な確認と身体拘束に関する委員会により、会議などや勉強会を通じて職員の知識や意識を高める。また身体拘束にあたりとされているもの以外の虐待につながる要因に対しても学びを深めていく。	3ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。
複数のユニットを有する事業所において、事業所全体でユニットごとの目標の総括を行う場合は、本様式を1つ作成してください。